

財政的視点(改訂版) 阿智村教育委員会

9月2日、学校のあり方検討委員会から最終答申骨子案が示されました。現在まで検討されてきた学校のあり方具体案(A案・B案・C案)を整理して、疑問や質問にお答えします。

Q1 学校規模はどのくらい違うの？

A案:施設分離型義務教育学校(村内5小学校, 1中学校)
B案:義務教育学校とサテライト(分校)2校
C案:義務教育学校

		A案 施設分離型の 義務教育学校	B案 義務教育学校と 1～4年の分校 2校	C案 義務教育学校
①	校舎設置数	施設分離型 義務教育学校 小学校5校舎 中学校1校舎	義務教育学校本校 浪合サテライト校 (1～4年) 清内路サテライト校 (1～4年)	義務教育学校1校
②	児童生徒数 (令和13年度見込み) ()は浪合山村留学生 推定数	第一小 101名 第二小 43名 第三小 33名 浪合小 11(+16)名 清内路小 24名 阿智中 139名	義務教育学校 1～9年 330(+8)名 浪合サテライト校 1～4年 4(+8)名 清内路サテライト校 1～4年 17名	義務教育学校 1～9年 351(+16)名
③	校長・教頭・養護・事務	小中6校舎で校長1 小学校5校舎で 教頭1・養護1・事務1 中学校校舎に 教頭1・養護1・事務1	本校に 校長1 教頭1・養護2・事務2 サテライト2校で教頭1 (養護・事務は兼務)	学校に校長1 教頭2+加配教諭1 養護2・事務2
④	県費専科指導教員	第一小に1名 阿智中に3名	1～6年に1名 7～9年に3名 (分校は配置なし)	1～6年に1名 7～9年に3名
⑤	村費複式支援員	5名(2400h不足)	2名(1200h余剰)	0名(3600h余剰)
⑥	村費専科指導教員	8名	音楽1名 司書1名 (4520h余剰)	司書1名 (5320h余剰)
⑦	村費特別教育支援員 (1学級当たりの人数)	0.46人	0.63人	0.8人

(h=時間)

Q2 財政的に比べるとどのくらい違うの？

○評価できる



△課題が残る

		A案 施設分離型の 義務教育学校	B案 義務教育学校と 1～4年の分校 2校	C案 義務教育学校
①	学校数	小学校5校舎 中学校1校舎	義務教育学校1校 分校2校	義務教育学校1校
② 人件費(支援員等村費職員)(年間・推計)		③ 光熱水費・備品費・管理費等(年間・推計)		
約 6,848 万円 △支援体制が分散するため、人的リソースの非効率な配置が避けられません。		約 6,340 万円 △各校での個別管理となり、重複支出と非効率な運用が心配です。	約 4,245 万円 △一部共通化は可能ですが、サテライト校では個別対応が必要です。	約 2,188 万円 ○一括管理による効率化が進み、年間運営費用の大幅削減可能です。
④ 給食センター・配送費・給食室等(年間・推計)		⑤ スクールバス費(年間・推計)		
約 5,337 万円 △現状の施設・備品を維持していくことを想定しています。		約 5,337 万円 △現状の施設・備品を維持していくことを想定しています。	約 5,214 万円 △浪合調理場は廃止になり、調理員は共同調理場に移行を想定します。	約 1,550 万円 ○現状のスクールバスが活用可能ですが、将来的には見直します。
		約 2,940 万円 △児童の移動機会が増えるため運行効率の改善が必要です。	約 3,280 万円 △児童生徒の移動機会が最も増えるため、費用は増加傾向です。	
⑥	設備維持費 (年間・推計)	約 4,300 万円 △施設の分散により補修コストが高く、非効率性が顕著です。	約 1,500 万円 △一部集約により軽減可能ですが、サテライト校の維持で効率化は限定的となります。	約 200 万円 ○1 施設に集約されることで、補修コストが大幅に削減されます。 (小学校校舎を新築と仮定)
⑦	長期累計費用 (長寿命化含む 40 年累計) 統合新築費	約 217 億 5000 万円 ○新築は不要ですが、補修費は継続的に発生します。	約 149 億 6000 万円 △本校整備・サテライト維持のためには、投資が必要です。	約 89 億 4000 万円 ○既存中学校施設の活用により、新築費の抑制が可能です。 (新築費約 17 億円を含む)